



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 332号 2011.4.11 発行 社会政策研究所

大阪の玄関口、利便性向上 橋上駅舎使用始まる

共同通信 2011年4月11日

JR大阪駅でホームをまたぐ橋上駅舎が完成、11日の始発から利用が始まった。地上3階の高さに相当し、発着する列車を見渡すことができる。ラッシュ時間帯の混雑緩和や周辺へのアクセス向上が期待される。

南側のサウスゲートビルディング（旧アクティ大阪）と、5月4日にオープンする北側のノースゲートビルディングを結ぶ連絡橋の中央に、新たな改札口「連絡橋口」が設置され、駅舎やホーム全体がガラス張りの巨大なドーム屋根ですっぽりと覆われている。

JR西日本は1日約10万人の利用を見込む。北側にある阪急梅田駅との乗り換え時間も短縮される。

ほとんど「防災」「都構想」 府民要望語られず

大阪日日新聞 2011年4月11日

「今回くらい誰に入れたらいいのか分からない選挙はない」。選挙戦の最終盤になっての大阪市内に住むある有権者の声だ。候補者が街頭演説で語る争点は、はっきりしていた。東日本大震災を受けての「防災」と橋下徹知事が代表を務める地域政党「大阪維新の会」が掲げる「大阪都」構想。街頭演説では二つのテーマを軸に、それぞれの主張が繰り返されることが多かった。



開票作業を進める大阪市職員ら＝10日午後9時17分、大阪市中央区民センター

しかし、「防災が大事なのは分かっているが（候補者による）違いが分からない」「大阪都構想は結局よく分からないままだった」という有権者の反応を多く耳にする。

震災で急浮上した防災というテーマは議論が深まっておらず、盛り上がりを見せていた都構想論議も中断されてしまった。

共同通信が2、3の両日に大阪府民を対象に実施した世論調査（本紙4日付17面掲載）によると、最も取り組んでほしい政策として上位を占めたのは「景気・雇用対策」（49・2％）と「医療・福祉」（46・2％）。

候補者の考える争点と府民の思いがかみ合っておらず、「大阪の生活保護者の多さは働く場所がないことが一番の問題」「（団塊世代の高齢化の）対応ができていない。政策目標として安心して年を取れるコミュニティーづくりを」といった府民の要望が選挙戦で語られることはほとんどなかったように思う。

橋下流一気に躍進 「維新の会」新顔ラッシュ

朝日新聞 2011年4月11日



←大阪市議選で初当選し、母親（左端）や妹と喜ぶ伊藤良夏氏（右）＝10日午後10時52分、大阪市住吉区、竹花徹朗撮影

大阪市議選で当選し、支援者にあいさつする河崎大樹氏＝10日午後10時12分、大阪市住吉区、中里友紀撮影→



「大阪都構想」の今後をうらなう大阪府議選、大阪、堺両市議選で、橋下徹・大阪府知事が率いる地域政党「大阪維新の会」が第1党となった。東日本大震災で選挙をとりまく空気が一変したかに見えたが、府議会では過半数も確保した。橋下人気は健在だった。

◇

維新の会の新顔候補たちは次々と当選を果たした。維新の会が「シンボル選挙区」と位置づけた大阪市議選住吉区選挙区（定数5）では、居並ぶ各党重鎮の現職らに挑んだ若手新顔2人がそろって当選した。

パリ・コレクションのモデル経験を持つ伊藤良夏氏（30）は「情熱を持って頑張った。毎日努力したことが結果につながった」と喜びを語った。「橋下代表の改革を進める実行力は大阪を変える希望。一緒に大阪を活性化させたい」

昨年9月、維新の会の第1次公認に選ばれた。無党派層に的を絞り、駅立ちで「モデル時代に熾烈（しれつ）な競争を生き残った」と話し、商店街で通行人と握手を重ねた。

2月まで橋下氏の特別秘書を務めた河崎大樹氏（39）は事務所で「都構想を実現し、大阪を強く元気になりたい」と語った。高校、大学の橋下氏の後輩で、都構想の策定にもかかわった「側近中の側近」。街頭で「橋下改革をそばで見てきた」と一体感をアピールし、応援した橋下氏も「僕の右腕を当選させて」と訴えてきた。

同市議選北区選挙区（定数3）でも現職とともに橋下氏と親しいタレントのやしきたかじん氏の顧問弁護士吉村洋文氏（35）が当選した。

大阪府議選の新顔も強さを見せ、過半数獲得の原動力となった。豊中市選挙区（定数5）では公募候補の漆間譲司氏（36）がトップ当選。「大阪を変えたいというみなさんの強い思いが、この結果を導いてくれた」と語った。

政権与党の民主党は惨敗。大阪府議選で21から10、同市議選で18から8、堺市議選で10から5と選挙前議席の半分以下に落ち込んだ。堺市議選で8選を逃した党府連副代表の小郷一氏（70）は「根本から立て直す必要がある」と話した。

橋下知事が敗北宣言「都構想は支持されなかった」 白紙化、連携協議へ

産経新聞 2011年4月11日

大阪府議会で過半数、大阪、堺の両市議会で第一党となった地域政党「大阪維新の会」の代表、橋下徹知事は11日、選挙結果について「目標に届かなかったので敗北。他党との話し合いで、どこが折り合えるのかを協議をしたい」と述べ、選挙結果を「敗北」と総括したうえで、大阪都構想を白紙化する方針を提示し、他党との連携協議に入る考えを示した。



維新、大阪市議選で過半数届かず

選挙戦では大きく議席を伸ばした維新だが、橋下知事は当初目標の3議会での過半数獲得が実現できなかったとして大阪都構想を留保。「大阪都構想は支持されなかった。構想は多くの考えた通りにならない」とし、これまで維新が訴えてきた区長公選制や府市の役割分担、大阪都の名称といったことも含め、協議をし直す姿勢を示した。

この日朝、やや固い表情で報道陣の前に姿を現した橋下知事は選挙結果について「府議会では支持を受けたがそれでもぎりぎり。これまでは民意の後押しも必要だったので戦闘モードだったが、野党のみなさんも府民の代表。戦は終わったので、きちんと話し合いをしたい」と述べた。

“敗因”について橋下知事は「自分の責任が第一だが、有権者が政治的判断をするにはメディアが成熟しなくてはならない」とし「有権者にもっと説明しろといっても無理。現代社会で政治と有権者をつなぐのはメディアだけで、説明責任はメディアにある。それができないなら報道の自由を与える意味はない」と指摘した。

投票率が伸び悩んだことについては「僕の責任。残念であり力不足で敗北の原因のひとつ」とした。

また、「大阪市役所の役人連中だけは許さない。責任を意地でも取らせる」とも言及。平松邦夫大阪市長との協議については「政治と行政の役割分担を理解しておらず、話し合いは厳しい」とした。

さらに、今秋に予定されている大阪市長選に維新の候補者を擁立することをあらためて示したが、自身の立候補については「決める段階にはない」と述べるにとどまった。

協力・共同さらに広く 被災者支援に全力 障全協が総会

しんぶん赤旗 2011年4月11日

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会（障全協）は10日、東京都内で第45回総会を開きました。▽日本障害者協議会・日本障害フォーラムへ結集し、被災者支援に全力をあげる▽障害者総合福祉法制定へ具体的な要望を集める「わたしのねがい運動」（仮称）をすすめる等の方針が決定されました。

白沢仁事務局長は、障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会等を見捨てた国の障害者制度改革の動きを許さず、障害・団体の違いを超えた協力・共同をさらに広げることが強調しました。

大阪障害者センターの雨田信幸事務局次長は、壊滅的被害を受けた岩手県沿岸部の施設・作業所、避難所を訪ねた模様を報告しました。

阪神・淡路大震災を経験した兵庫障害者連絡協議会や京都代表が、募金行動の報告をしました。計画停電でエレベーターが停止し食料品が不足するなど、日常生活に大きな影響が出たことや、避難所での障害者への情報伝達のあり方について発言があり、行政の災害対策を改善することを話し合いました。

会長＝吉本哲夫、事務局長＝白沢仁（いずれも再任）などの役員を選出しました。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行